

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
ジョイハント半田		2025 年 12月 26日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	0	活動に合わせてレイアウトを調整し、定員に適した動線を確保している。	個別活動時の静かなスペース確保に一部改善の余地がある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	6	0	児童の状態に応じて担当を柔軟に配置し、支援が偏らないよう調整している。	繁忙時の突発対応に備え、補助要員の確保が課題となっている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	0	活動内容に応じて簡易的な区分を設け、見通しを持ちやすい環境を整えている。	構造化が不十分で、特性に応じた表示やバリアフリー化がさらに必要となっている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0	定期的な清掃と環境整備を行い、活動に適した清潔で落ち着く空間を保っている。	活動量が多い日は物品が散乱しやすく、整理の仕組み強化が求められている。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	0	必要に応じて個別スペースを用意し、児童が安心して過ごせる場を確保している。	利用が重なる時間帯は個別室が不足し、追加スペースの検討が必要となっている。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	1	定期的に目標共有を行い、振り返りを特定スタッフが中心に実施している。	参画が偏っており、全職員が関われる仕組みづくりが必要となっている。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	2	送迎時やイベントで保護者の意向を聞き取り、改善に反映する機会を設けている。	評価表の回収にばらつきがあり、意見を安定して集める工夫が必要となっている。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	定期ミーティングで意見交換を行い、改善点を共有しながら運営に反映している。	時間が限られ十分な議論が難しいため、記録化と議題整理の工夫が求められている。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	4	相談員や保護者から外部的視点の意見を得て、運営改善に活かす取り組みを行っている。	評価内容の検証が不足しており、改善策の具体化と定期確認が必要となっている。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0	外部研修の参加を促し、職員が学びを実践に生かせるよう支援体制を整えている。	受講内容の共有が十分でなく、学びを組織全体に広げる仕組みが求められている。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0	活動状況に合わせて柔軟にプログラムを調整し、児童の状態に即した支援を行っている。	臨機応変さが中心となり、年間を通した計画性の強化が求められている。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6	0	日々の様子や保護者の意向を丁寧に確認し、ニーズに沿った計画を作成している。	評価方法が職員で統一されておらず、アセスメントの形式化が必要となっている。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0	担当職員が情報共有し、児発管と協力して児童の利益を優先した計画検討を行っている。	多忙時は検討の時間確保が難しく、話し合いの頻度向上が課題となっている。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	0	その日の状況を踏まえ、児童の課題に合わせた柔軟な優先順位で支援を行っている。	計画共有が十分でなく、全職員が同じ方針で働ける仕組みの整備が必要となっている。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	0	日々の行動観察に加え、適応行動を把握するためのアセスメントを継続して実施している。	ツール活用にばらつきがあり、記録方法の統一と定期見直しが求められている。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0	ガイドラインの視点を踏まえ、多面的な支援項目を設定し具体的内容へ落とし込んでいる。	項目が広範で整理が難しく、優先度を明確化する工夫が求められている。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0	職員同士で意見を出し合い、チームで活動内容を検討し多様なプログラムを作っている。	担当に偏りが出ることがあり、均等に役割を共有する仕組みづくりが課題となる。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	季節行事や児童の興味を取り入れ、内容が固定化しないよう定期的に見直している。	個々の興味関心や特性に配慮しながら、複数の選択肢を用意したり、難易度を調整する工夫を行い、すべての児童が「やってみたい」「楽しかった」と感じられる活動構成を目指している。

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	0	児童の状態を見て個別と集団を柔軟に組み合わせ、無理なく参加できる計画を立てている。	相談員さんのモニタリング訪問や、個別支援が重なる時間は対応に余裕が少なく、人員配置の再検討が求められる日もある。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0	支援前に必ず打合せを行い、職員間で役割と支援方針を共有し連携を図っている。	急な予定変更時の情報共有が遅れがちで、伝達方法の統一が必要となっている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	1	時間が確保できる日は短時間でも振り返りを行い、気付きの共有に努めている。	支援後の打合せが安定せず、実施頻度を維持する仕組みづくりが課題となっている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	日々の支援内容を連絡文に記録し、児童の変化を継続して把握できる体制を整えている。	記録の書き方に差があり、統一したフォーマットの導入が求められている。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0	定期的なモニタリングを実施し、必要に応じて計画の見直しを行う流れを確立している。	モニタリング内容の共有が少なく、職員間で情報を広げる工夫が必要となっている。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6	0	基本活動を組み合わせ、楽しさと学びを両立した支援が提供できるよう工夫している。	活動構成が似通う日があり、より多様な組み合わせを検討する余地がある。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	0	活動の選択肢を複数用意し、児童が自分で選べる機会を日常的に取り入れている。	選択に迷う児童への支援が課題で、見通しが持てる提示方法の工夫が必要となっている。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0	児童の状況をよく把握している担当職員が会議に参加し、必要な情報を共有している。	多機関連携の場では更に記録を整理し、説明内容を統一する工夫が必要となっている。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	1	医療・学校・福祉など関係機関と必要に応じて連絡を取り、支援体制を整えている。	連携内容の記録化が不十分で、職員間で共有できる仕組みの整備が求められている。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	0	学校と行事予定や下校時刻を共有し、送迎調整や緊急連絡に迅速に対応している。	学校ごとの情報差があり、共有のタイミングを一定化する工夫が必要となっている。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	1	相談員や保護者を通じて就学前の情報をできる限り把握し、支援に活かしている。	事業所間の直接連携が少なく、体制としての情報共有方法の確立が課題となっている。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	2	移行を想定し、支援の経過を日々記録しており、必要時に情報提供できる基盤を整えている。	卒業による移行事例がなく、今後に備えて情報提供の手順を具体化する必要がある。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	3	必要時には外部の助言を受けられるよう、情報収集や連携先の検討を進めている。	児童発達支援センターとの連携機会が少なく、助言体制の構築が課題となっている。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6	0	他事業所との合同イベントを毎月実施し、地域の児童と交流する機会を確保している。	交流が特定イベントに偏り、日常的な関わりの機会づくりが課題となっている。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	3	協議会へ積極的に参加し、地域の情報や支援方法を学びながら事業所へ共有している。	参加職員に限られるため、学んだ内容を職員全体へ広げる仕組みが必要となっている。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	送迎時や連絡を通じて保護者と定期的に状況を確認し、共通理解を保つよう努めている。	情報が口頭中心で、記録として残りにくく、共有方法の明確化が必要となっている。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	3	家庭ごとの状況に応じて、必要な家庭には支援プログラムや情報提供を行っている。	参加機会に差があり、負担なく参加できる形の支援方法を検討する必要がある。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	運営規程や負担額を資料を用いて説明し、保護者が理解しやすい工夫をしている。	説明が一度で終わりがやすく、継続的に確認する仕組みの整備が求められている。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0	計画作成前に面談を行い、児童と家族の意向を丁寧に確認する機会を設けている。	意向の変化を拾いにくく、定期的な再確認の機会を増やす必要がある。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6	0	計画書を示しながら内容を説明し、理解を確認したうえで保護者の同意を得ている。	説明が時間的に急ぎがちで、個別に質問できる余裕を作る工夫が必要となっている。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0	子育て相談に柔軟に対応し、必要に応じて助言や面談の機会を設けている。	相談内容の記録が不足しがちで、支援に活かせる整理方法が課題となっている。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	6	0	夏祭りなどの行事で保護者やきょうだいが交流できる機会を意識的に設けている。	行事が年数回に限られ、日常的な交流の場づくりが今後の課題となっている。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0	苦情対応の体制を整え、保護者へ周知し、内容に応じ迅速に対応している。	記録の残し方にばらつきがあり、対応履歴を整理する仕組みが課題となっている。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	0	システム配信に加えHPを作成し、より分かりやすい情報発信を目指している。	情報量に偏りが出るため、更新頻度や内容の均一化が求められている。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0	個人情報は都度同意を得て扱い、取り扱いに注意する体制を整えている。	運用がスタッフ間で統一されておらず、より明確なルール化が必要となっている。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0	必要に応じて視覚的支援や丁寧な説明を行い、意思疎通のしやすい環境を整えている。	支援方法に職員差があり、統一した伝達方法の共有が求められている。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	0	地域行事や案内イベントに住民を招き、地域と関わる機会を積極的に作っている。	参加される住民層が限られがちで、参加しやすい機会づくりが課題となっている。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0	日々の支援やミーティングで職員間の情報共有を行い、安全意識を保つよう努めている。	各種マニュアルの周知と訓練が不足しており、実践的な体制整備が求められている。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0	必要に応じて避難方法などを職員間で確認し、災害時の対応意識を持つようにしている。	BCP策定と定期訓練が十分でなく、継続的な訓練体制の構築が必要となっている。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	0	服薬・発作などは保護者へ都度確認し、状況に応じた支援につなげるよう努めている。	更新時の記録と共有方法の強化が課題となっている。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	0	保護者からのアレルギー対応マニュアルを確認し、誤食がないよう注意して支援している。	医師指示書に基づく体制が未整備で、専門的視点を踏まえた対応強化が必要となっている。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0	安全管理に関する研修を受講し、事故防止への意識向上に取り組んでいる。	研修内容の共有が不十分で、全職員が統一理解できる仕組みづくりが必要となっている。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	0	安全計画の内容を保護者へ伝え、対応方法を共有し連携しながら支援している。	周知方法が口頭中心のため、文書化し確認しやすい形にすることが求められている。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0	ヒヤリハットを職員間で共有し、原因分析と改善策の検討を定期的に行っている。	共有のタイミングにばらつきがあり、記録と振り返りの統一が課題となっている。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	虐待防止に関する研修を受講し、全職員が適切な対応を意識して支援している。	研修内容の実践への反映が十分でなく、理解度の確認が必要となっている。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	0	身体拘束が必要な児童はおらず、安全な支援環境を維持する工夫が続けている。	体制の未整備があり、万一来備えた手順整備と保護者説明が今後の課題となっている。